

138 事業者が求める健診結果のデータ化

138 事業者が求める健診結果のデータ化

11月11日、当法人では「健康起因事故防止のための健診結果の効果的な活用方法について」をテーマとして、第11回OCHISセミナーを開催しました。

全国からトラック・バス・タクシーの事業者さまをはじめ、国土省安全政策課、全ト協の永嶋常務、大原記念労働科学研究所の酒井所長ら錚々たる方々をお迎えし、健康起因事故防止対策についての講演、ディスカッションが交わされました。(セミナーの状況はHPでぜひご覧ください)

■ナビシステムでハイリスク者をピックアップ

その中でOCHISから提案させて頂いたのが、「運輸ヘルスケアナビシステム」という、定期健康診断結果のデータをシステム化することにより、ハイリスク者を見えるようにしよう

というもので、現在、OCHISでは、このシステム構築とスタートに向けて検討を重ねています。つまり、「健診結果から浮かぶ身体的重要な情報を見ずして、健康起因事故対策のスタートは決して切れない」と考えています。

ただ多くのトラック事業者には、定期健康診断は義務だから受けるけれども、受けるだけという現状があります。そして事後フォローができていない理由には、健診機関がバラバラなのでフォーマットや基準値が異なる、産業医がいらない、多忙で手が回らないなど、実に様々な事情が複合的背景として存在しています。

■フォローしなければ意味がない

実は、私はなれば自分を追い込むようにして、本システムを立ち上げることを決意し、しかもOCHISセミナーでのリリースに至りました。おかげさまで事業者さまのセミナー参加への理由は、「開催テーマが気になった」がダントツに多く、自らがその必要性和重要性を再認識できることとなりました。ただし現在は、「理想は高いがハードルも高い」とフレッシュャーを感じているというのが正直な気持ちですが…(笑)。

■システムは96%が必要と回答

セミナーでは、「健診結果をデータ化することの必要性について」をアンケートで聞いていますが、回答頂いた46人のうち、実に44人(96%)が必要と回答されています。つまり、事業者さまの多くは「健診結果は紙ベースではなくシステムを駆使して、わかりやすく見えるようにしたい」と考えているのではないのでしょうか。

皆様のご要望に応えられるよう、来年度スタートに向けて最善を尽くしたいと思います。

(今回は1月16日号に掲載)



《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>